



# 大野 一心

NO. 2 3

令和5年8月30日（水） 文責：校長 諸熊 修一

## 2学期が始まりました！

約40日間の夏休みが終わりました。夏休み前半に実施された県中総体や吹奏楽コンクール、そして、台風が接近する中、九州大会に出場したみなさんは、とてもよく頑張ってくれました。県中総体では、バドミントンとハンドボールの応援しか行けなかったのですが、他の競技でも出場した選手の皆さんがよく頑張っていたという報告を受けています。

また、吹奏楽コンクールでは本校吹奏楽部がゴールド金賞を受賞して、念願の県吹奏楽コンクールに出場することができました。素晴らしい演奏で私もとても感動しました。

今年の暑い夏は大野中学校の学校名が多くのお場で響き渡りました。

九州大会、そして全国大会に出場した部や選手を以下に紹介します。（敬称略）



### 【九州大会出場】

- |        |           |            |            |
|--------|-----------|------------|------------|
| ・女子卓球部 | 大坪 真陽（2年） | ・空手道部      | 岩永 仁（3年）   |
| ・体操部   | 上近 琉斗（2年） | ・男子バドミントン部 | 伊志嶺 琉空（3年） |
| ・新体操   | 藤野 杏（3年）  |            | 宮下 翔真（3年）  |
| ・柔道部   | 牟田 桜雪（2年） | ・男子ハンドボール部 | ・女子ハンドボール部 |

### 【全国大会出場】

- |      |           |      |           |
|------|-----------|------|-----------|
| ・体操部 | 上近 琉斗（2年） | ・柔道部 | 牟田 桜雪（2年） |
|------|-----------|------|-----------|



さて、昨日始業式を行いました。残暑厳しい中でしたが、学期初めなので生徒の顔を見て話をしたいと思い、体育館へ入館させて実施しました。

式辞では、それぞれの学年に対して2学期のキーワードを示して、私からのお願いをしました。

### 【1年生へ】

1年生の皆さんへ送る2学期のキーワードは「けじめ」です。例えば、休み時間と授業の「けじめ」。私語をしていい時とそうでない時の「けじめ」。遊ぶ時と勉強するときの「けじめ」など、オンとオフをしっかりと意識して学校生活を送ってほしいと思います。入学式の時のキラキラとした皆さんの瞳を覚えています。再度、中学生になった頃の初心に戻って2学期の生活をスタートしてください。

### 【2年生へ】

2年生の皆さんへ送る2学期のキーワードは「行動力」です。これから、部活動はもちろんのこと、生徒会活動などの主役・リーダーが、3年生から2年生の皆さんに引き継がれます。昨年度「ファーストペンギン」「セカンドペンギン」の話をしたと思いますが、ぜひ、勇気をもって一歩踏み出してください。授業中に発表できなかった人は、6時間の授業の中

【裏面へ】

で1回は手を挙げてみる。学校行事の実行委員に立候補してみる。自分から挨拶をする。ゴミが落ちていたら率先して拾う。何でもいい。何か一つでもいいから、行動を起こしてみてください。

### 【3年生へ】

3年生の皆さんへ送るキーワードは「支えあい」です。これから、進路決定をする大事な時期に入っていきます。今まで培ってきた様々な力を総動員して、自分をよく見つめ、自分のよさを存分に発揮できる進路選択をしてほしいと思います。進路実現というゴールのためにも、悩んだ時には、周りの友達に相談してください。先生方に相談してください。家族に相談してください。中学校卒業後の進路は、君たちにとって人生最初の大事な分岐点です。だからこそ、自分一人で抱え込まずに、支えあって乗り越えていきましょう。



### 【全校生徒の皆さんへ】

自分の学力を伸ばすために、「これまでの家庭学習時間+30分」ということをぜひ意識して実践してください。1学期、ほとんど家庭学習をしていなかった人は、毎日30分でかまいません。1時間、2時間以上学習をしていた人は、30分だけ伸ばしてください。「塵も積もれば山となる」です。ぜひ、取り組んでください。学力の向上に必ずつながってきます。「家庭学習のすすめ」というプリントを作成しました。家庭学習をどのように進めていいか、分からない人の大きなヒントになると思います。ぜひ参考にしてください。

### 【校長のひとこと】

10年程前に五島市で勤務していた頃の話です。娘が私の勤務している校区内の小学校に通学していたので、小学校の夏休み作品展を見に行きました。

ある女の子が家庭科の作品で、手提げ袋を作っていました。かわいらしく、実用的で縫い方もしっかりしていました。でも、一目で自分の力だけで作ってはいないと思ったので、ちょっぴり残念な気持ちでいたところ、名札に目を移すと、そこには、作品名、氏名の他に「親子合作」と堂々と記されていました。



「親子合作」という四文字がとても印象に残りました。夏休み作品展には、このようなものがあってもよいのではないかと思います。親子の共同作業の中で、おそらく次のようなことがあったに違いありません。親の身につけた技術を子どもに伝えようとしていること。また、子どもの側から見れば、親の身につけたことを学んでいるわけです。さらに、この作業は、子どもが学校で学んでいることを親が知る機会にもなります。こういう学習は、夏休みだからこそできるのではないかと思います。

現在、生成AIが注目されています。例えば、人間の質問に答えて自然な言葉で文章を生成できるAIも開発されています。その機能を使うと感想文などは、あっという間に完成するそうです。「学ぶ」ということは、思考力や発想力、表現力、コミュニケーション力を高めていくことです。しかし、生成AIを使用して感想文などを完成させても、その過程には、何の「学び」もありません。

みなさんは夏休みの課題を通して何を学びましたか？